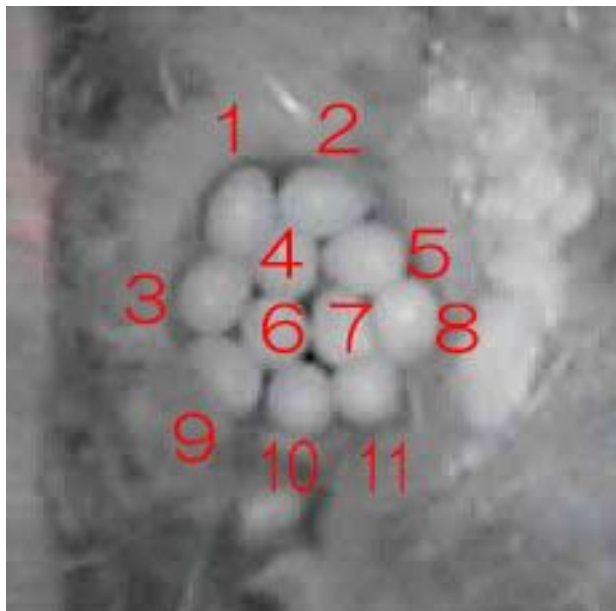


「シジュウカラの営巣 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



これがシジュウカラの卵の拡大写真である。赤外線カメラではよくわからないが、表面には茶色の斑点模様がある。大きさは 15mm ほどで、重さも産卵直後でも 1.4g ほどしかない。その後少しずつ軽くなる。殻の重さを除くと、孵化直後のヒナの体重は 1g 前後しかないだろう。

今年のシジュウカラは、ついに 11 個目の卵を産んだ。8 個や 9 個は珍しくないが、11 個はこの巣箱では新記録だ。もちろんすべて一羽のメスが産んだ卵だ。

巣箱の中に設置してあるカメラは、親鳥やヒナの生育に影響を与えないよう、熱や光をほとんど出さないものを選んでる。弱い赤外線で撮影しているので、コントラストの弱い白黒画像でしか写らない。



実際の巣箱の内部はこんなふうになっている。これは一昨年、シジュウカラの親鳥が抱卵を放棄してしまったものを、巣草ごと取り出して撮影したものである。ミズゴケと綿毛の産座に 6 個の卵が見える。

最終卵 (この巣箱では 11 個目) を産み終わると、メスの親鳥は昼夜とも巣箱内に留まって、抱卵するようになる。日中は外に出て自分で餌を採ることもあるが、基本的には 24 時間巣箱の中で過ごす。そんなメスの為に、時にはオス (旦那) が餌を持って巣箱に入ってくることもある。抱卵中、オスはあまり来ないが、孵化するとオスは大忙しになる。メスの餌とヒナの餌の両方を採ってくる必要があるからだ。